

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 ハルタル アマルトゥブシン

	主査	教授	西浦	博
審査担当者	副査	教授	荒戸	照世
	副査	教授	玉腰	暁子
	副査	教授	大滝	純司

学 位 論 文 題 名

Instrumental Activities of Daily Livings (IADL) and Depression in Community-Dwelling People
Aged 60 Years or Older in Kandy District, Sri Lanka

- With Special Reference to Ethnicity -

(スリランカ・キャンディ地区の地域高齢者における手段的日常生活動作とうつ
ー民族性の視点からー)

本研究は、スリランカの中でも多民族性が保たれているキャンディ地区を対象にした横断的疫学研究であり、民族とうつ病及び民族と手段的日常生活動作 (IADL) との関係を中心に明らかにすべく実施したものである。

学位論文内容の口頭発表後、副査の大滝純司教授より、調査対象のコミュニティの選定理由と他地域との差異に関する質問があった。申請者は、Tamil 民族の数が十分かつ民族の混合性が十分であるためと回答した。主査の西浦博教授からは、統計学的検討として民族の層構造に着目するならばマルチレベル分析が妥当なのではないかという指摘があった。申請者は、民族別のサブグループ解析を実施しており、さらに、マルチレベル解析も実施していることに関して追加分析の結果を交えて説明した。副査の玉腰暁子教授から、サンプル集団の選択について説明が不足しており、それが結果に与えた影響はないのかと質問があった。申請者は、サンプリング手法を説明し、全体を代表できているか否かについて考察を施す必要性を回答した。副査の荒戸照世教授から、先行研究と今回の研究の違いについて明確に説明するよう質問があり、申請者は、従来の研究では non-Sinhalese が 1 つのグループとして取り扱われており、そのグループの中で本研究は Tamil の際立って貧しい集団に IADL の割合が高いことを特定したことを主張した。

この論文は、民族および社会経済的要因が IADL およびうつ病に与える影響に関して疫学的検討を施した。特に、スリランカのキャンディ地区におけるフィールド横断調査を通じて概ね適切な方法論に基づいて解析した点は高く評価され、高齢社会における民族的な不平等を明確に示し、今後の健康寿命の延伸政策を構築する上で基礎資料として貢献することが期待される。

審査委員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。